

大妻女大短大 ○布施谷節子 高部啓子

目的：最近のビッグな既製服の流行の中で、衣服のフィット感について、以前とはかなりの差があると思われる。そこで、女子短大生が現在着用している既製服のゆとり量やゆとり感覚を明らかにすることによって、衣服の設計やサイズ選択のための基礎的資料を得ることを目的とした。

資料・方法：1993、1994年の夏と冬に、女子短大生313名を対象として質問紙法による調査を行った。調査項目は、身長、胸囲、胴囲、腰囲、ゆきの5身体計測値とブラウス、シャツブラウス、タイトスカート、ジーンズ、パンツの胸部、胴部、腰部、ゆき丈、着丈のゆとり量とゆとり感覚についての合計45項目である。これらの項目を用いて、単純集計、クロス集計、因子分析によって解析し、考察を行った。

結果：①素材については、シャツブラウス・ジーンズでは約90%、その他の服種では約30%が綿または綿混である。②着用サイズについては、ブラウス、シャツブラウス、スカートはMサイズに相当するものが60%前後を占めており、サイズの偏りがみられる。③身体計測値と胸部、胴部、腰部、ゆきのゆとり量との間には負の相関がみられ、計測値の大きい人はゆとり量が少なく、小さい人はゆとり量が多い傾向が認められる。④胸部のゆとり量の平均値は、ブラウス18.8cm、シャツブラウス25.7cmであり、ブラウスでは50.2%がちょうどよい、シャツブラウスでは62.6%がややゆるい・ゆるいと感じている。また、ゆき丈では身体寸法と衣服寸法との間に、ブラウス6.8cm、シャツブラウス8.6cmもの差異が認められるにもかかわらず、それぞれ50.8%、45.4%の人がちょうどよいと感じている。胴部のゆとり量は、スカート・パンツではちょうどよいと感じる割合が高いのに対して、ジーンズではゆるいと感じている割合が高い。